

おくすりの真実

まずは
くすりの基本を
教えます!

医薬品の種類や正しい飲み方など、薬についての気になる疑問を解決! これを読めば、より効果的に薬を購入、使用することができます。

Q.08 薬用って書いてあるけど薬ではない?

A 病気の防止というスタンス

身体を清潔にするほかにきびなども防止する

「薬用」とつく製品は、「医薬部外品」の中の「薬用化粧品」にあたるもの。人の身体を清潔にするなどの目的のほか、きびや肌荒れの防止も合わせて目的にしています。

薬用シャンプーのほかに、歯磨きやクリーム、化粧品、石鹸などにつくことが多いです。

ウル・オス
薬用スカルプシャンプー
(医薬部外品)

シャンプーなどにも記載

Q.06 市販薬と処方薬の違いは何?

A 市販薬は自分で選択、処方薬は医師の指示

市販薬は基本的に治療はしない

市販薬はドラッグストアなどで、自分の意志により選択するもの。処方薬は個々の患者の症状に応じ、医師が必要な成分を選んで処方するものです。

市販薬
価格は製薬メーカーが開発コストや販売状況などの要因から決定

処方薬
薬価は製薬企業の資料などをもとに厚生労働省が決める公定価格

Q.09 薬の正しい保管方法ってあるの?

A 各薬の注意点をよく見て!

暗く乾いた涼しい場所に

薬を購入したら、間違えて飲まないよう、ほかのものと同様にしておくこと。また品質を保つため、高温多湿や日光を避け、涼しい所に保管しておきましょう。

高温多湿、日光を避ける

薬以外のものと区別する

子どもの手の届かないところに置く

冷所保存は守る

Q.07 漢方薬やサプリは薬じゃない?

A 漢方は生薬、サプリは補助

生薬や機能性素材など主成分が異なる

漢方薬は、複数の自然由来の生薬を組み合わせているもの。サプリメントは、ビタミン、ミネラル、アミノ酸などの機能性素材を主成分とした栄養補助食品です。

漢方薬
一剤でいろいろな症状を解消したり、和らげたりすることができます

サプリ
栄養の不足部分を補い、理想的な健康状態を目指すために活用できます

Q.10 第1類医薬品と2類、3類の違いは?

A 薬のリスクで販売方法が異なります

リスクが高い薬は自由に手に取れない

一般医薬品は、副作用のリスクにより5つに分類されています。特にリスクが高い要指導医薬品や第1類医薬品は、購入時に薬剤師から書面による情報提供が義務づけられています。店内の陳列場所も、お客が直接手に取れることはできません。

第3類医薬品	第2類医薬品	指定第2類医薬品	第1類医薬品	要指導医薬品
<p>副作用のリスクは比較的低い。登録販売者が対応でき、薬はお客が直接手に取れる</p> <p>副作用のリスクは比較的高い。店内ではお客が直接手に取ることができる</p>	<p>副作用のリスクは比較的高い。店内ではお客が直接手に取ることができる</p>	<p>薬剤師または登録販売者が対応。一般医薬品のなかで比較的副作用のリスクが高い</p>	<p>一般医薬品のなかで、特に副作用などのリスクが高い医薬品。薬剤師が対応</p>	<p>製造販売の承認を受けてから一定期間を経過していない医薬品。薬剤師が対応</p>

リスク ← 低い → 高い

くすりの疑問

薬は種類が細かく分かれていて知らずに使うとリスク大です!



Q.01 水以外で薬を飲んじゃいけないの?

A 副作用のキケンがあります!

水または白湯で薬を飲むこと!

薬を水以外で飲むと、薬と飲み物の組み合わせによっては副作用が出たり効果が出にくくなったりする場合があるので注意が必要です。基本的には白湯(湯冷まし)がベストです。水が嫌な人は、薬剤師に相談してみましょう。

飲み物と薬の組み合わせ	影響
アルコール+薬全般	副作用増大
牛乳+腸で溶ける下剤	胃で溶けるため吐き気などの副作用
炭酸飲料+胃薬など	吸収を妨げて効果減少
コーヒー、紅茶+カフェインのカゼ薬など	カフェインの過剰摂取
お茶+鉄剤	吸収を妨げて効果減少

Q.02 複数の薬を飲んで大丈夫?

A 効果が出すぎる、打ち消すことも!

副作用が出る

専門家の指示に従うこと!

同じ病院で処方、指示されている場合はいいですが、それ以外は副作用の心配が出てくるので避けましょう。

組み合わせ次第で
副作用増大 / 効果減少

いろいろな薬
さまざまな飲み物
コーヒー / 紅茶 / ジュース

Q.04 薬を飲む回数が分けてある理由は?

A 効き目をよくするため

持続性 1日2回

1日2回の薬

血中濃度を保って効きやすくする

薬を分けて飲むと、体内の血中濃度(どの程度の量の薬があるか)が一定になり、効果が出やすくなります。2回分をまとめて飲んではいけません。必ず容量用法を守ってください。

1日2回(朝、夕)服用と書かれているものは、その通りに飲むようにしましょう

Q.03 薬を多く飲めば効果も強くなる?

A 無意味どころかキケン!

薬の過剰摂取は副作用を引き起こす

効き目がないからといって、服用量を増やしてはいけません。血中濃度が高くなりすぎて、副作用が強くなる可能性があります。

副作用増加!

想定量以上の服用、使用

やってはいけない薬の組み合わせ

解熱鎮痛薬 + 総合カゼ薬	成分の過剰摂取になり、副作用が増強されます。カフェインの過剰摂取になる恐れもあります
鼻炎薬 + せき止め薬	抗ヒスタミン成分や塩化リゾチーム、カンゾウなど重複成分が多数
ある種の抗生物質 + 市販の胃腸薬	胃腸薬に含まれるカルシウム、マグネシウム、アルミニウムなどの制酸成分により、抗生物質の効き目が悪くなります

Q.05 大人用の薬を子供にあげるのNG?

A 絶対にダメ!

子どもにだけ副作用が出やすい薬もある

子どもにだけ副作用が出やすい成分の薬があります。大人用の薬の量を減らして与えることも避けてください。必ず子ども用の薬を使用すること。

15歳以上用
アセトアミノフェン...300mg
TYLENOL

3歳~15歳用
アセトアミノフェン...50mg
BUFFERIN

くすりの基本

思わずやってしまいそうなその行為はNGなんです!

